

【学校教育目標】 知識を活かして互いに学び、自ら未来に挑戦する緑っ子の育成

「知識を活かして」:情報を収集・整理・表現・発信するための理解 「互いに学び」:自分の考えを形成し表現したり互いの考えを伝え合い合意形成したりする力 「自らの未来に挑戦する」:自ら生活や学習状況を見つめ、解決に向けて試行錯誤しながら学ぼうとする態度

【知識・技能】

| 強みと弱み |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力がある ○学習意欲が旺盛 ○家庭の協力がある ●学びの姿勢に個人差 ●体力の低迷 |

【思考力・判断力・表現力等】

| 強みと弱み |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○思考力がある ●表現が苦手 ●合意形成ができない ●応用ができない |

【学びに向かう力、人間性等】

| 強みと弱み |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○やり抜く力がある ○助け合える ○明るく優しい ○素直 ○真面目・几帳面 ●自主・自律の欠如 ●自己肯定感が低い ●将来の夢がない ●地域行事に参加してない |

令和6年度 育成を目指す資質・能力

知りたい やってみたい なりたい 自分への挑戦！

【自立性】

【自己表現力】

| 重点目標 | 達成指標 | 分担 | 重点的取組 | 取組指標 | 取組状況の評価 | 達成状況の評価 | 検証結果（自己評価） | | 学校関係者評価 |
|--|---|----|---------------------|--|---------|---------|---|---|--|
| | | | | | | | 取組結果 | 今後の改善策 | |
| 【タブレット端末による表現力の向上】 表現力の向上及びICT基本操作の習得 | ・ロイロノート、Keynote等のアプリの活用アンケートで「タブレット端末を使って、友だちやクラス、全校に対して自分の考えを伝えることができましたか」の質問に対して「できる」と回答した児童の平均割合を全体比70%以上にする。〈1学期は2年生以上を対象〉 平均割合が89%、達成度が127.1%となることから、評価は「S」 | 学校 | iPadアプリの指導・活用 | ・学級・教科担任は、1学期に1単元以上、タブレット端末による『表現方法』を用いた授業を実施する。（5～7月） | A | S | ・教職員アンケートで肯定的な回答は94%であるので、評価は「A」である。 ・児童アンケートで肯定的な回答が90%であり、評価は「A」である。 | タブレット端末による『表現方法』を用いた授業に必要な指標を4つにまとめ、発達段階に応じて整理した一覧表を作成。これにより指導の視点を明確化させる。 | ・タブレットを使用した掲示物も多く活用状況がうかがえる。 ・評価については学校評価の通り。 |
| | | | タイピング技能の向上 | ・学級担任は、タイピング技能向上に向けて、月3回以上指導を行う。 | S | | ・教職員のセルフチェックでは、全体で95回実施しているので、達成率は352%であり、評価は「S」である。 | | |
| | | 家庭 | iPadの適切な使い方の指導（見守り） | ・保護者は、iPadを持ち帰った際に、不適切な使い方をしていないか必ず確認をする。 ※学期に1回は、学年通信でiPadの使い方について各学年ごとに連絡を行う。 | A | | ・保護者アンケートでは、肯定的な意見が87%あり、評価は「A」である。 | | |

| 重点目標 | 達成指標 | 分担 | 重点的取組 | 取組指標 | 取組状況の評価 | 達成状況の評価 | 検証結果（自己評価） | | 学校関係者評価 | |
|---------------------------------------|---|----|----------------------|--|--|---------|---|--|---|---|
| | | | | | | | 取組結果 | 今後の改善策 | | |
| 【自ら考え意見を交流し合意形成する力の育成】 互いに学び合う力の育成 | ・学期末チェックテスト（思・判・表）の目標得点達成児童の割合が60%（1年生90%以上）を超えた教科数を22以上にする。 目標達成教科が21、達成度が94%となることから、評価は「A」 | 学校 | 「生徒指導の3機能」を活かした授業の実践 | ・学級担任は、国語、算数、理科において、「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を設定した授業」を実施時数の60%以上実施する。 ・学級担任は、「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を設定した授業づくり」について校内研修（学期に2回以上）で支援方法を検討する。 | S | A | ・教職員のセルフチェックでは、131%の達成率であり、評価は「S」である。 | 実践の中で有効であった「意見を交流し、共感的人間関係を育む」手立てについて、学習過程ごとに整理し、一覧表を作成。授業のどの過程で、どのような手立てで共感的人間関係を育むかを明確化する。 | ・学力調査の結果を十分に検証し弱点を克服されたい。 ・3年生の放課後学習は地域の先生も増えて定着してきた。家庭学習の充実を促したい。 ・評価については学校評価の通り。 | |
| | | | 家庭 | 自主的な家庭学習習慣の育成 | ・保護者は、家庭学習の手引きを使って子どもと一緒に目標を立て、学期ごとに振り返りをする。 | | C | | | ・校内研修において、1学期は、「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を設定した授業づくり」について2回行ったので、評価は「A」である。 ・保護者アンケートの肯定的な回答は、52%だったので、評価は「C」である。 ・児童アンケートは72%であるので、評価は「B」である。 |
| | | 地域 | 定期的な学習支援の実施 | ・月に1回以上の放課後学習教室を、3・4年生を対象に実施する。 | S | | ・保護者アンケートの肯定的な回答は、52%だったので、評価は「C」である。 ・児童アンケートは72%であるので、評価は「B」である。 ・5月、6月、7月の3ヵ月間で、4年放課後学習教室を5回実施した。実施率は、166%となり、評価は、「S」である。 ・3年生については、3ヵ月で4回実施した。実施率は、133%で評価は「S」である。 | | | 特に3年生については宿題だけでなく計算・漢字のプリントを実施する。 |

| 重点目標 | 達成指標 | 分担 | 重点的取組 | 取組指標 | 取組状況の評価 | 達成状況の評価 | 検証結果（自己評価） | | 学校関係者評価 |
|--------------------------------|--|----|------------------|--|---------------------------------|---------|---|---|--|
| | | | | | | | 取組結果 | 今後の改善策 | |
| 【自己の状況を把握して行動する力の育成】 自立性の醸成 | ・生活ルールアンケートで「3つの名人になるために自分が立てた目標を毎日実行できた。」と回答した児童の割合を全体比70%以上にする。 割合が88%、達成度が125%となるが、教師から見ると課題が見られるため、評価は「A」 | 学校 | 児童の意識づけ及び自己評価の実施 | ・学級担任は、3つの名人になるための目標を自己決定させ、その取り組みについての意欲付けや声かけ、振り返りを1日1回以上行う。 | A | A | ・教職員セルフチェックで90%が実施したとしているので、評価は「A」である。 | 「自分で立てた目標」の振り返りについて、徹底できない学級もあった。単に生活目標を守るためではなく、自立性を高める取組であることを再確認し、効果的な振り返り方法を検討する。 | ・あいさつについてはアンケートと実態で乖離があるのではないかと。地域として交通安全指導に含めてあいさつも取り組んでいきたい。 ・評価については学校評価の通り。 |
| | | | | 家庭 | ・保護者は、1日1回は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。 | | A | | |
| | | 地域 | | ・子どもに会った時は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。 | A | | ・アンケート結果の83.7%の子どもたちが、地域の方からよく声掛けをいただいていると答えているので評価は「A」である。 | | |

*評価（S：100%超過 A:80%以上～100%以下 B：60%以上～80%未満 C：60%未満）